

あさくみの促す

～現地説明会特別号～

令和5年7月2日発行

朝酌矢田Ⅱ遺跡とその周辺

島根県埋蔵文化財調査センターでは、大橋川河川改修事業に伴う発掘調査を行っています。今年度は、5月8日より松江市朝酌町に所在する朝酌矢田Ⅱ遺跡F区の発掘調査を行ったところ、平安時代末から鎌倉時代の集落の一部と考えられる遺構が発見されました。

朝酌矢田Ⅱ遺跡は、令和2年度のC区の調査で『出雲国風土記』に登場する「朝酌渡」と考えられる古代の石敷き護岸が発見され、注目されました。また、この石敷き護岸より西側の調査では、古代の道路や集落、古墳などが確認されており、「渡」一帯が繁栄していたことが明らかとなっています。今回の調査地（F区）は、この石敷き護岸の北東約50mの丘陵上に位置します。

魚見塚遺跡・朝酌菖蒲谷遺跡（平成28年度松江市調査）
『出雲国風土記』記載の「枉北道」と考えられる奈良時代の道路や集落。

魚見塚古墳
古墳時代後期の大型前方後円墳
（全長62m）



D区（令和2年度調査）
古代の礫敷遺構の一部を検出。

E区（令和4年度調査）
古墳時代の集落のほか、弥生時代の配石木棺墓やガラス玉を発見。

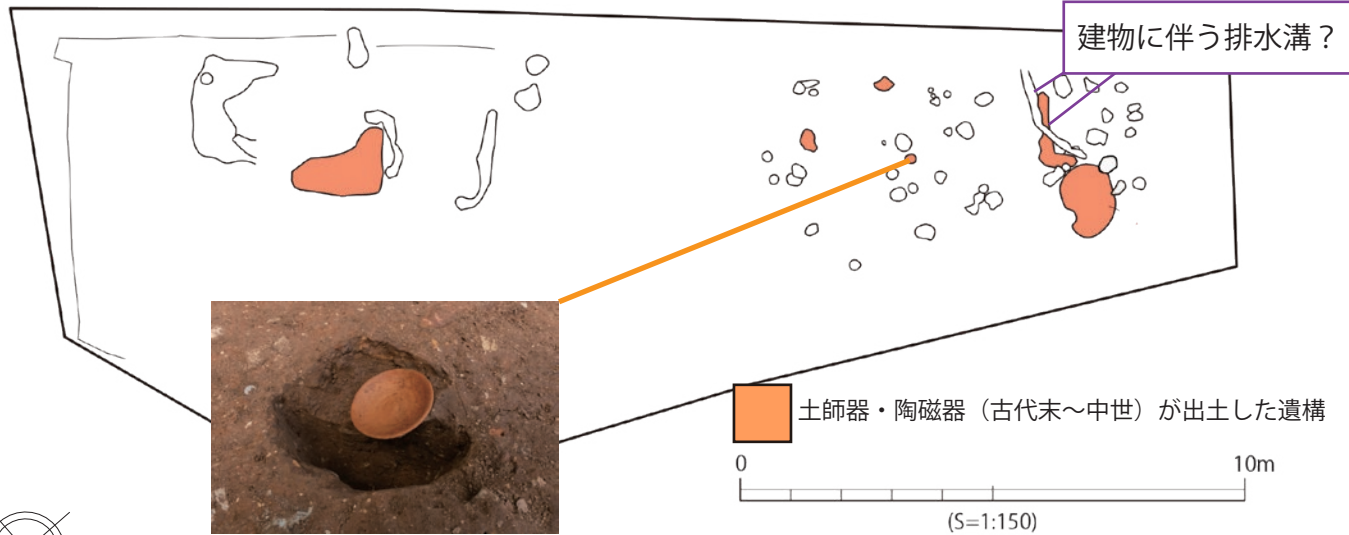
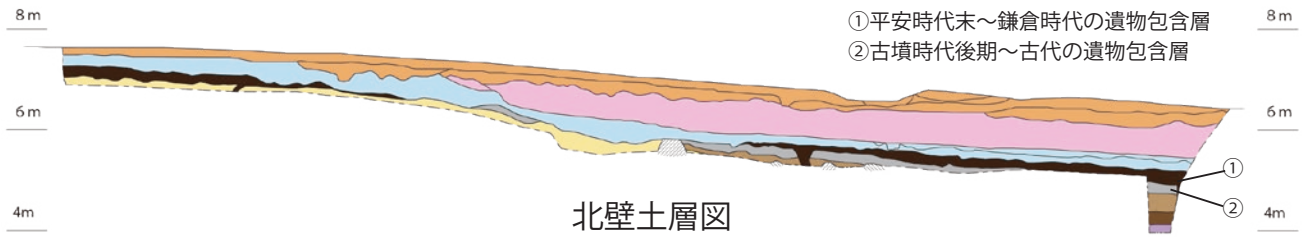
A・B区（令和元年度調査）
今年度調査区に隣接している。
古墳時代後期後半の方墳の周溝を2基検出した。

C区（令和2年度調査）
古代の石敷き遺構を検出した。
『出雲国風土記』に記載されている古代の渡し場「朝酌渡」の一部と考えられる。

F区（今年度調査区）

朝酌矢田Ⅱ遺跡 遠景

今年度の調査成果



遺構平面図

今回の調査では、弥生時代の終わりから鎌倉時代までの土器が出土したほか、平安時代の終わりから鎌倉時代頃の建物の柱穴などが発見されました。それより古い時代の遺構は、現在調査中です。

遺構に伴う土器は、大半が素焼きの土師器で、内面を黒く仕上げた黒色土器も見られます。また、わずかですが、中国から輸入された白磁碗や青磁碗の破片も出土しています。

平安時代の終わり頃は、北西のC区で発見された「朝酌渡」と考えられる石敷遺構が利用されなくなった直後の時期と考えられ、周辺環境の変化を考えるうえでも貴重な成果となりました。

今後の調査で、石敷き遺構と同時期の建物が発見されるかもしれません。



東側の建物跡

編集・発行

【島根県教育庁埋蔵文化財調査センター】

〒690-0131 松江市打出町 33

TEL : 0852-36-8608

FAX : 0852-36-8025

E-mail : maibun@pref.shimane.lg.jp

HP : <https://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>